

INTERVIEW

「映像通信の世紀」を見据え、 コンテンツとコミュニケーション の総合力で社会貢献したい

コンテンツとコミュニケーションの総合力をコアコンピタンスに、教育・研修、映像制作、インターネットの3本柱を軸に事業を展開するNTTラーニングシステムズ。放送のデジタル化に伴う「映像通信の世紀」を見据えた同社の取組みについて、2005年6月より経営の舵取りを行っている飯塚久夫社長にうかがった。

教育・研修、映像制作、インターネットの3つを軸に事業展開

——2005年6月、NTTラーニングシステムズ（以下、NTTLS）の社長に就任されましたが、かなり以前にもかかわったことがあるとうかがいましたが…。

飯塚 実は、1990年頃NTTはジョージ・ルーカスのコンサルにより、当時としては最新の映像設備を備えた「メディアラボ」を麻布に誕生させました。当時のNTTグループ企業本部から、その運営方法等をジョージ・ルーカスのところへ行って相



図1 NTTラーニングシステムズの主要事業ドメイン

談してきて欲しいと、NTT技術調査部に在籍していた私のところに依頼がありました。サンフランシスコの事務所に行った際に、ジョージ・ルーカスから、当時のシリコン・グラフィックス社（以下、SGI）のジムクラーク会長を紹介され、同氏からはNTTへビデオ・オン・デマンド（VOD）の提案がありました。そして、VODについてSGIやマイクロソフト社と大々的なトライアルを行い大きな成果は残したものの、ビジネスとしては時期尚早でした。これがNTTLSとの出会いでした。今日、VODはインターネットと結びつき、改めて立派なビジネスとして離陸しようとしています。このような時期に、社長に就任したことは改めて少なからぬ因縁のようなものを感じました。

——半年を経過しましたが、ビジネスの状況はいかがですか。

飯塚 NTTLSは、「コンテンツとコミュニケーションを総合し、知恵と情熱でお客様と社会のお役に立ちます」を経営理念として掲げ、教



NTTラーニングシステムズ(株)
代表取締役社長 飯塚 久夫氏

育・研修を中心に、映像制作、インターネットの3本柱を軸に、3事業のシナジーを活かして、ブロードバンド時代に求められるトータルソリューションを提供しています。経営的には、今後いかにNTTグループ以外の一般市場でのビジネスを拡大するかが課題であると捉えています。そのためには、NTTLSのプレゼンスを高め、「技術力と創造力」という高いポテンシャルを最大限に活かせるような事業展開が必要だと考えています。

「映像通信の世紀」という 新時代への対応力が鍵に

——一般市場の拡大を含め、経営の舵取りを行う上でのキーポイントをお聞かせください。

飯塚 世の中が急激に変化をする中、きちんと時代の流れに対応することが重要です。時代の変わり目というのは、新たな可能性が期待でき、大きなビジネスチャンスの時でもあります。昨今、通信と放送の融合が話題になっていますが、いよいよ通

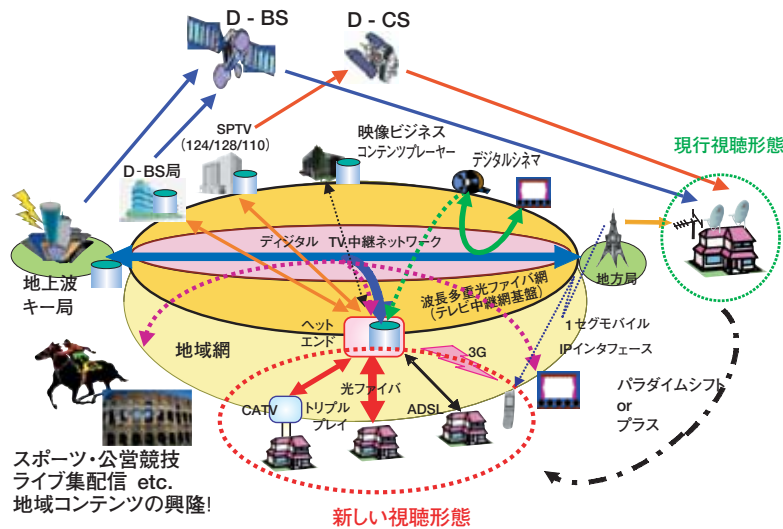


図2 放送デジタル化がもたらす変革＝「新たな映像通信」への期待

信・放送連携による真に新しい映像の時代が始まろうとしています。放送のデジタル化に伴って、ポケベル、PHS、iモードに次ぐ「第4のメッセージング」を含めた「新たな映像通信の可能性」が拓かれることが期待できます。また、これ以外にもインターネットの質的大転換や、セキュリティマネジメントなど、変化を迎えようとしている要因がたくさんあります。こういった変化の波に乗り遅れることがないようにしなければなりません。教育・研修事業はもとより、いよいよ映像事業、インターネット事業も改めて新しい舞台造りに乗り出すチャンスが到来していると思います。

——放送デジタル化がもたらす変革として、新たな映像通信の可能性が拓かれるということですが…。

飯塚 いよいよ2006年からデジタル放送が全国拡大され、2011年までにはアナログ放送からデジタル放送に移行されます。放送のデジタル化に

より、ネットの端末としてのテレビというものに、新しい映像の時代が結びついてくるものと考えています。つまり、従来のテレビでもない、インターネットでもない新たな映像利用スタイルの創出というのが重要になる時代がくるでしょうし、新しい映像コンテンツプレーヤーが活躍できるものと考えています。その意味で私は、21世紀は「映像の世紀」から「映像通信の世紀」へ変わっていくとあえて表現しています。大変なビジネスチャンスでもある「映像通信の世紀」への変化をどう捉え、今何をすべきかが、経営の舵取りを行う上で一番のポイントです。

LEARNINGこそ、映像通信時代の究極のENTERTAINMENT

——そういったビジネスを取り巻く環境の変化を踏まえ、今後どのような点に注力されるお考えですか。

飯塚 前述した様々な変化は、私どもに限らず、NTTグループが改め

て力を発揮するチャンスの時でもあります。情報通信の原点である信頼性・安全性・可用性を重視したインターネットの質的転換に加え、IPv6やモバイルIP、高品質IP、ユビキタス通信は、日本が再び世界の先端をいく格好のチャンスです。その中で、NTTLSとしては、得意としているアプリケーションをしっかりとやって、プラットフォーム、インフラを扱っているグループ会社といかに連携していくかが重要です。

——得意分野として、映像制作事業におけるポストプロダクションのスキルには定評があり、12月封切りされた超大作映画「男たちの大和」のCG処理の一部を担当されたとか。

飯塚 高スキルの映像処理技術者がいることから、担当させていただきました。こういった個々の事業領域における社員のスキルアップを図りつつ、3つの事業領域のシナジーを發揮したアプリケーション分野でいかに頑張るかです。教育・研修事業にしても、少子高齢化社会における生涯教育、シニア層の教育はますます重要になると思っています。その際には、教育コンテンツも含め映像通信の世紀に相応しい、楽しく、分かりやすい、効果的な教育・研修の舞台造りをしなければなりません。したがって、私は「LEARNINGこそ究極のENTERTAINMENT!」の認識のもと、コンテンツとコミュニケーションの総合力でお客様と社会のお役に立ちたいと強く思っています。

——本日は有り難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)